

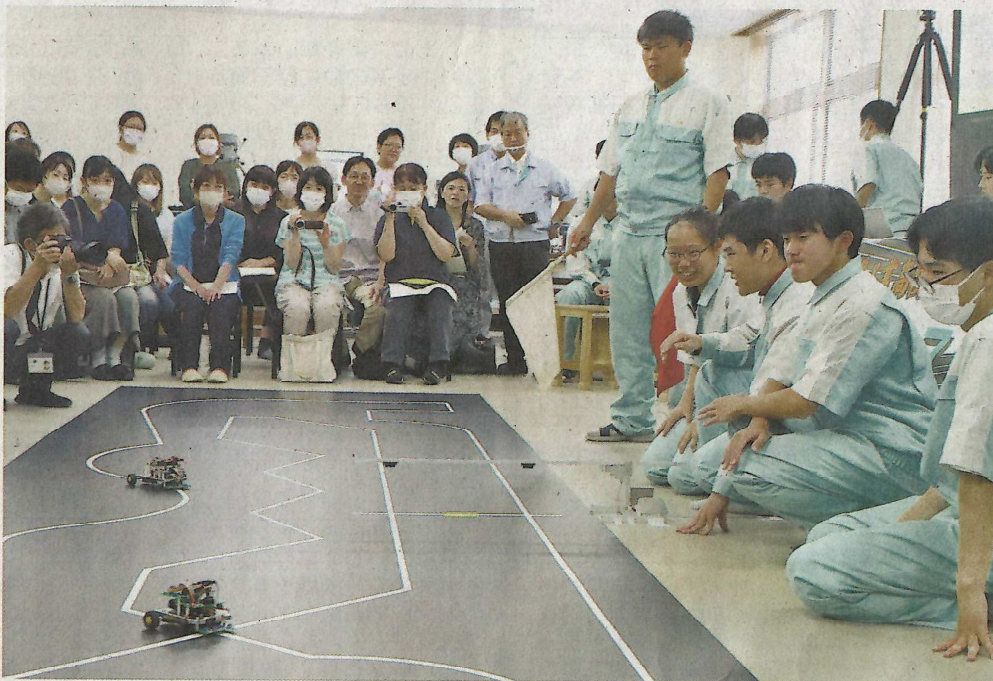
自走ロボット集大成

駒ヶ根工業 高年 製作マシンでレース
情報技術科3年

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)の情報技術科3年生40人は11日、自走ロボットの速さを競う大会を同校で開いた。コースの白線をセンサーで感

知しながら走る「ラインレースカー」で競い合う恒例の大会で、生徒たちが1年時から製作してきたマシンを走らせる集大成のレース。保護者

らも招き、コースを進む自走ロボットに声援を送った。総合的な技術を学ぶため、1年時から自走ロボットの製作に取り組んでいる同科。マ



自作したマシンの性能を競う
駒ヶ根工業高校情報技術科の3年生

予選で好タイムを出した松田晴道さんは「プログラムやシャフトを微調整しながら大会に臨んだ。完走できたことがうれしい」と喜び、予選で全体の1位の36秒99をマークした手塚浩之輔さんは「コンパクトな設計でコースアウトしにくいプログラムにした。練習でも出たことがないタイムで驚いた」と手応えを感じ取っていた。(有賀政宗)

イコンボードや制御基板、3D CAD(コンピュータ利用設計)などを使って車体の設計、製作、制御プログラミングなどを学び、総仕上げとして大会で披露している。大会パンフレットの作成や運営、進行も生徒が主導。保護者や2年生が見学に訪れた。会場にはカーブやジグザグ走行、十字路などがある複雑なコースが設けられ、2台ずつ走行してタイム順に上位8台が決勝レースに進んだ。同じ部品を使っている車体の構造やプログラムによって速度、曲がり方はさまざま。スムーズに走るマシンがある一方で、コースアウトや逆走して完走できないロボットもあった。

長野日報

Nagano Nippo

ご購入ありがとうございます

7月13日(土)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)

©長野日報社2024